

# 平成 30 年度 研究成果報告書

## Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパⅡ講座・准教授
氏名 Name	古谷大輔
専門分野 Academic Field	西洋史学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	歴史的ヨーロッパにおける主権概念の批判的再構築
<p>平成 30 年度は、第一に研究代表者として主宰する科研基盤 (A) 「歴史的ヨーロッパにおける主権概念の批判的再構築」における研究活動の一環として、「君主政の狭間からみる近世の主権国家-スコーネ住民と「正しき統治」」を発表し、歴史的なスウェーデン語の運用に垣間見られた「主権」概念の輻輳性を確認するとともに、スウェーデン君主政に帰属した後のスコーネ住民の請願行動を根拠としながら、近世的主権国家における住民レベルから見た権力と権利の相貌を確認した (『歴史学研究』978 号)。加えて、近代的な「主権国家」観では抽出することの難しい「礫岩国家」論へ結びついた 20 世紀以降のデンマーク、スウェーデンにおける史学史を整理し、「鉄のカーテン」を超えて-スコーネの「国替え」を巡るデンマークとスウェーデンの研究史」を公開した (『IDUN-北欧史研究-』vol.23)。これらの研究成果は、2019 年 5 月に開催予定の歴史学研究会大会における合同部会シンポジウムにも反映される。</p> <p>第二に研究分担者として参画する科研基盤 (B) 「ジャコバン主義の再検討: 「王のいる共和政」の国際比較研究」における研究活動の一環として、18 世紀末にウップサーラ大学におけるユンタン (結社・徒党) の言動などからスウェーデン・ジャコバンの特徴を分析し、「混合政体の更新と「ジャコバンの王国」-スウェーデン王国における「革命」の経験-」という論題の報告を整理し、中央ヨーロッパ大学で開催された国際ワークショップでは英語報告 “Swedish experience of “revolution” as a renewal of “monarchia mixta”” を行った。この研究で得られた知見は 2019 年 5 月に開催される日本西洋史学会小シンポジウムで公開される。</p> <p>さらに平成 30 年度は、STINT(スウェーデン研究・高等教育国際協力財団)の Sweden-Japan 150 Anniversary Grant に採択された共同プロジェクト “Japanese Studies in Sweden, Swedish Studies in Japan: Collaborative research on limits and possibilities of Area Studies in the 21st Century” にも参画して、ストックホルム大学にて学生を対象とした講義 “Förmedlarna som kopplade mellan Asien och Europa: De svenska erfarenheterna i det tidigmoderna Japan” (2018 年 9 月 10 日)、現地研究者を対象とした報告「日本における北欧史研究の回顧と展望」(同 11 日)、現地日本人を対象とした講義「アジアとヨーロッパを繋ぐ媒介者たち-近世日本におけるスウェーデンの経験」(同 12 日) を行った。また歴史教育における高大連携事業にも参画し、神奈川県高等学校教科研究会歴史分科会高大連携講座「近代のヨーロッパをどのように学ぶか: 近代の北欧」(2018 年 8 月 7 日) などで講義を行った。</p>	